

まだ伝えてないよ 今日の分の大好きを (※)

私たちは実際に大きな震災に直面したことはありません。ですが、災害の被害者たちの痛みや辛さがリアルに伝わってきて、つい感情移入してしまいました。この映画は大震災が主に語られていましたが、全ての人に共通する事だと思います。大切な人に先に旅立たれた人の痛み、それを超えて生きていこうとする人の強さ、で自分も強く在りたいと思いました。大震災を実際に経験した人が徐々に減っていくのは仕方の無いことです。でも、震災を経験していない私たちでも後世に何か伝えられたらなと思います。

「有り、触れた、未来」は、命の儚さと希望、そして人と人とのつながりを深く考えさせられる作品でした。震災を経験した人々の心情に寄り添いながらも、未来へ向かう力強さを感じました。それぞれの人生が交錯しながら、支え合い、分かち合い、何度でも立ち上がる姿が印象的でした。この作品を通じて、多くの人が「生きること」について改めて考えるきっかけになるとと思います。

震災で家族や恋人や大切なものを失ったとしても、いつまでもつらい記憶にとらわれてはいけなから、前を向いて生きるべきだと思います。いままでは家族と幸せに暮らしていることを当たり前のように感じていましたが、本当はそれはとても尊いものなのだなと思いました。

大切な人がなくなると、自分の事はどうでもよくなってしまふ。命について、一つしかないものだから大切にしたいなと思いました。毎日、震災が来るかもしれないという気持ちで生活していきたいです。

(5月2日の映画“有り、触れた、未来”の感想より)

この世が終わるその日に、明日の予定を立てよう。

そうやって生きて、生きてみよう

(※) Mrs. GREEN APPLE “Soranji”より

2025年の6月が、君たちの大切な3日間になりますように！！

堺市立三国丘中学校長 吉岡 哲郎